



踊町は所定の場所で演し物を奉納した後、市内の事業所や各家を回り演し物を呈上し、福を分ける。

呈上を受けたお礼のことを
ご祝儀ではなく「御花」と呼ぶ。



魚の町の庭見世の様子。
こうして奉納踊の準備が
できたことを披露する。

秋風が吹けば、
長崎人の心は
祭りへとまつしぐら。

踊町をはしこして楽しむ人も多い。
緋毛氈の上には、長崎のハレの
日には欠かせない桃饅頭や栗饅頭
をはじめ、立派な鯛や伊勢海老、
栗や柿：と、秋の味覚も飾られる。
涼しい風が吹く夕暮れ時、長崎の人
は庭見世を楽しみながら、秋の訪れ
を知るのだ。

煌びやかな衣装

庭見世とは、町内の表通りに面し
た店舗や敷地を開放し、町のシンボ
ルともいえる傘鉦をはじめ演し物の
曳物や衣装、小道具、楽器などを飾
り、出演者に贈られたお祝品を並べ
て披露するというもの。豪華絢爛な
衣装や、演し物の細かな細工などを間
近で見ることができると人気の行事で、
踊町をはしこして楽しむ人も多い。

見物客に振る舞われる甘酒

くんちの稽古は一年がかりといわ
れるが、祭りが行われる十月ともな
れば長崎のまちはさわそわと、浮足
立つような雰囲気漂う。さまざま
な関連行事が続く中、十月三日の夕
方から各踊町で行われる「庭見世」
は、長崎の人に「いよいよ祭りが始
まるぞ!」という思いを抱かせる。

栗やざくらなど、秋の味覚が飾り付けられる。

きた。
奉納踊を奉納する踊町は59カ町あ
り、当番は七年に一度、回ってく
る。つまり全ての演し物を見るに
は、七年の歳月を要する。それは踊
町にとっても同じことで、彼らは七
年分の思いを祭りの三日間に込める
のだ。

長崎の秋の祭りといえば、十月
七日・八日・九日に行われる
「長崎くんち」。長崎市民から「お
すわさん」と親しまれている諏訪神
社の祭祀行事だ。一六三四年に始
まったとされ、以来、三百八十年以
上にわたって今日まで受け継がれて

桃饅頭

長崎くんち 庭見世



本番では踊町の列の先頭に立つ
町のシンボル「傘鉦」

